

30
モーセ
聖徒伝 56

「天よ、 耳を傾けよ」

申命記31～32章 モーセの歌

申命記10

【今日のアウトライン】

0. イントロダクション

I. モーセの遺言 31章

II. モーセの歌 32章

III. まとめと適用

わたし自身をイスラエルに重ねる時
真に味わい知らされる、主の恵み



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

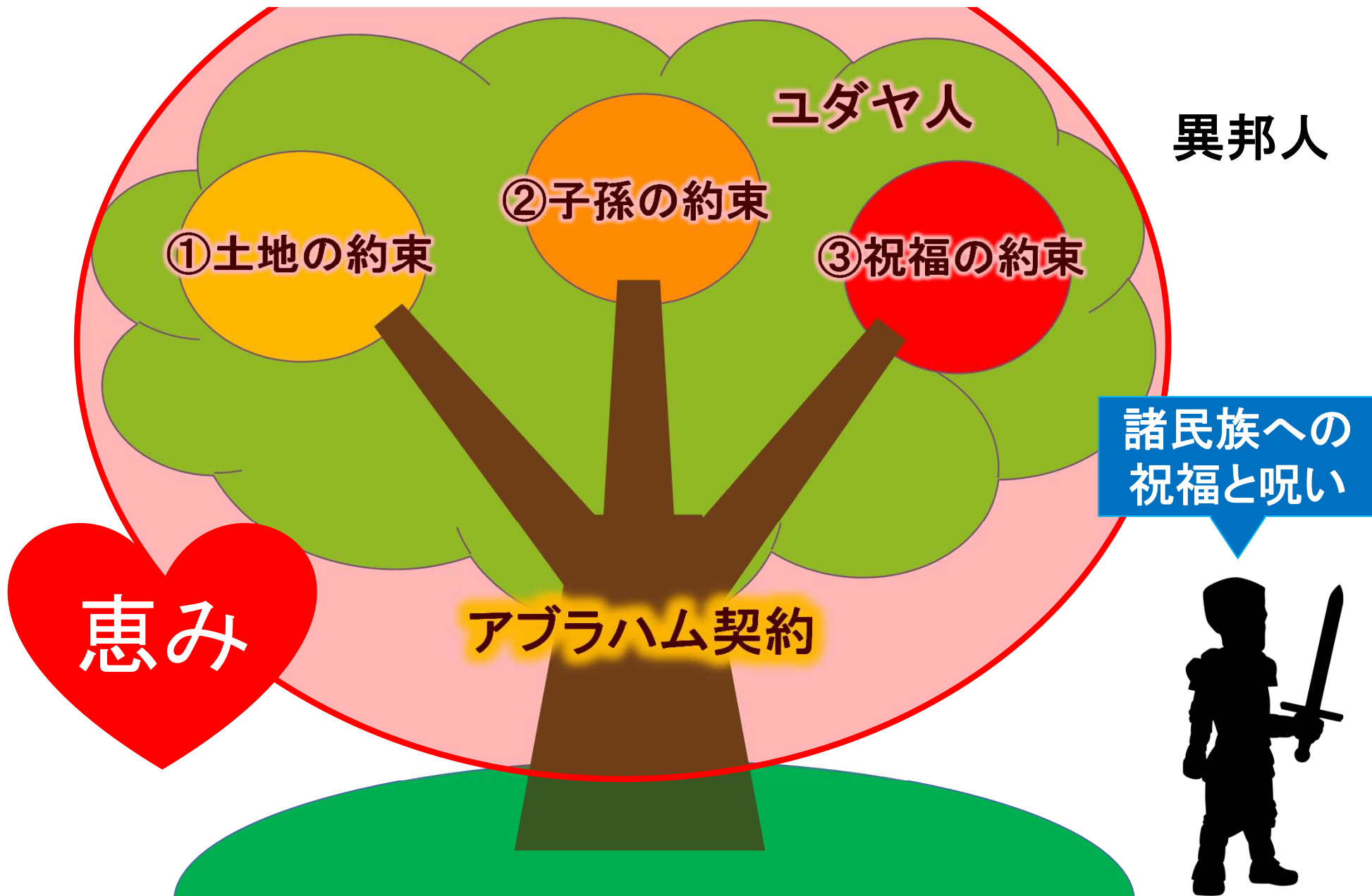
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

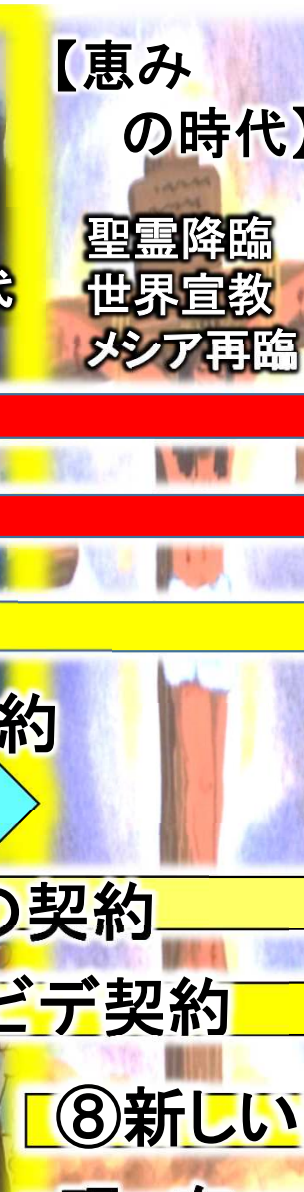
※しるし ...割礼

イスラエルを
守り導く土台



【アブラハム契約】





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

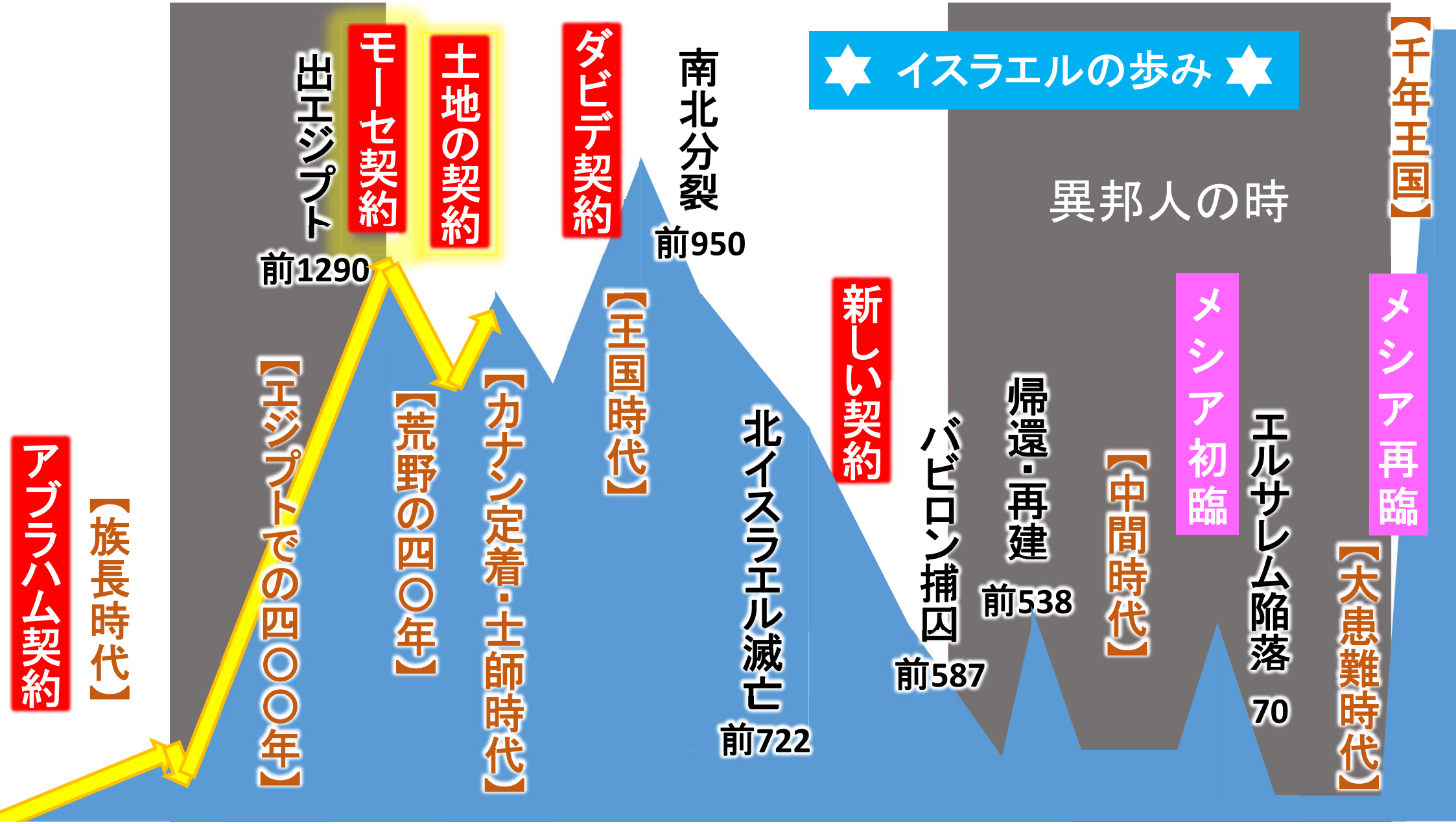
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

前1290

出エジプト

モーセ契約

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

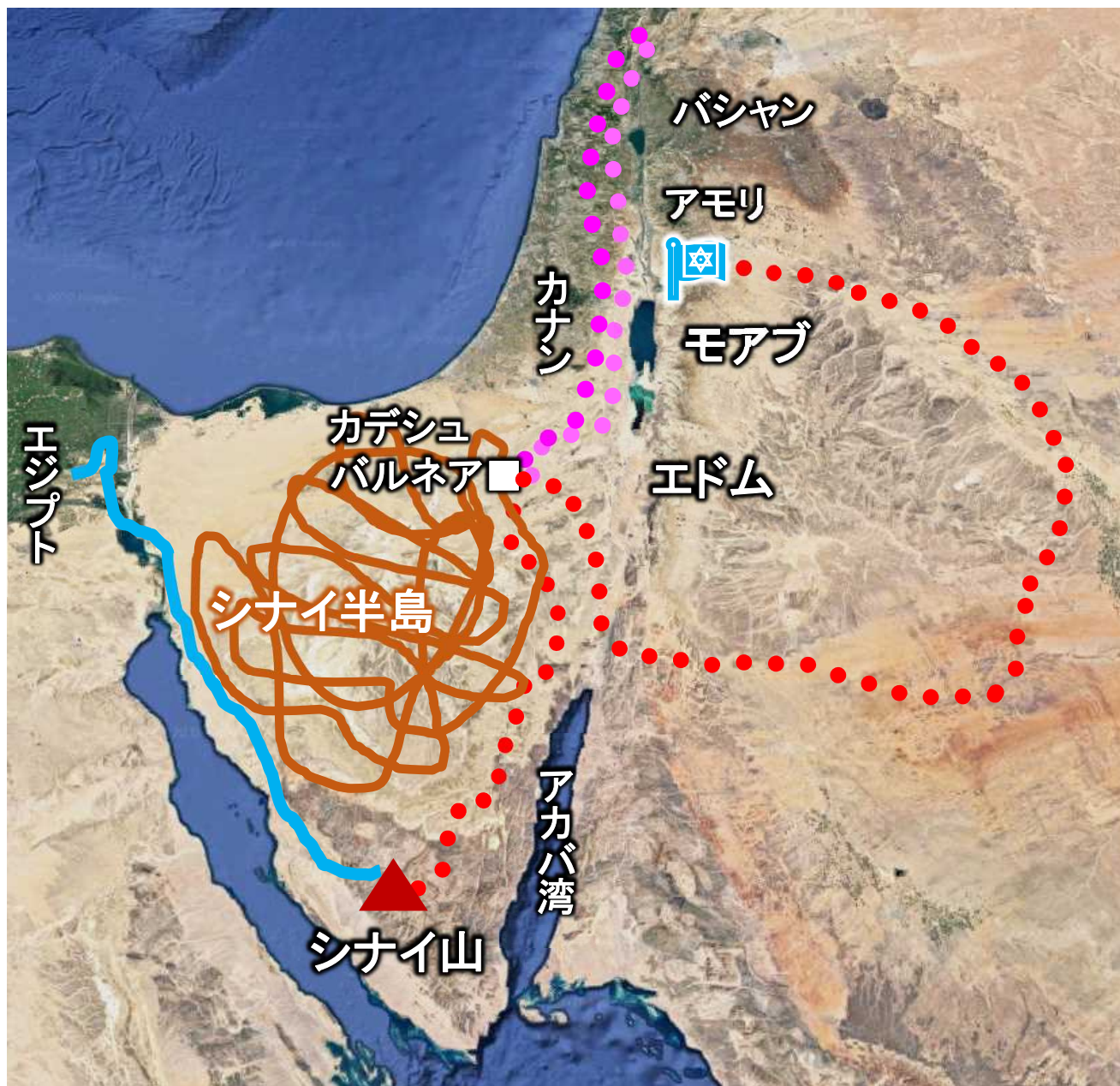
【荒野の40年】

■カデシュ・バルネア事件

イスラエルは、神に反逆し、
その世代の者は、荒野で
死に絶えることとなった。

■ エジプトから約束の地まで、
歩いて10日ほどの距離を
イスラエルは、40年放浪した。

■ ヨルダン川の東まで、
イスラエルはやってきた。



【申命記・アウトライン】

I. 過去の回顧 1～4章

ホレブ山地からヨルダン川東岸まで 1～4章

II. 律法の解説 5～26章

① 十戒 5章

② 主要な規定(シエマ6:4～5) 6～11章

③ その他の諸規定 12～26章

III. 未来の展望 27～30章

① 祝福と呪い 27～28章

② 「土地の契約」 29～30章

IV. 指導者の交代 31～34章

モーセからヨシュアへ



I. モーセの遺言

申命記31章



ネボ山からの景色

【語りかけるモーセ】 申31:1～3

それからモーセは行って、次のことばをイスラエル全体に告げて、彼らに向かって言った。「私は今日、百二十歳だ。もう出入りする*ことができない。【主】は私に『あなたはこのヨルダン川を渡ることはできない』と言われた。

あなたの神、【主】ご自身があなたに先立って渡って行き、この方があなたの前からこれらの国々を根絶やしにされ、あなたはこれらを占領する。ヨシュアが、【主】が告げられたように、あなたに先立って渡るのだ。

* 務めを果たす (新共同訳)

■ 先立って行かれるのは、いつでも主ご自身。



【共におられる主の保証】 申31:4～6

【主】は、主が根絶やしにした、アモリ人の王シホンとオグ
および彼らの国に対して行ったように、彼らに対しても行
われる。【主】は彼らをあなたがたに渡される。あなたが
たは、私が命じたすべての命令どおり、彼らに行わなけ
ればならない。強くあれ。雄々しくあれ。彼らを恐れてはな
らない。おののいてはならない。あなたの神、【主】ご自身
があなたとともに進まれるからだ。主はあなたを見放さず、
あなたを見捨てない。」

* ヨルダン川東岸での最初の勝利。

➡イスラエルを励ます出来事として語り継がれていく。

* 主が共におられる。➡主ご自身の存在が、約束の保証。



【ヨシュアの任命の宣言】 申31:7～8

それからモーセはヨシュアを呼び寄せ、全イスラエルの目の前で彼に言った。「強くあれ。雄々しくあれ。【主】がこの民の父祖たちに与えると誓われた地に、彼らとともに入るのはあなたであり、それを彼らに受け継がせるのもあなたである。【主】ご自身があなたに先立って進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」

■ 後継者の任命は、モーセからヨシュアへの個人的な呼びかけによってなされた。

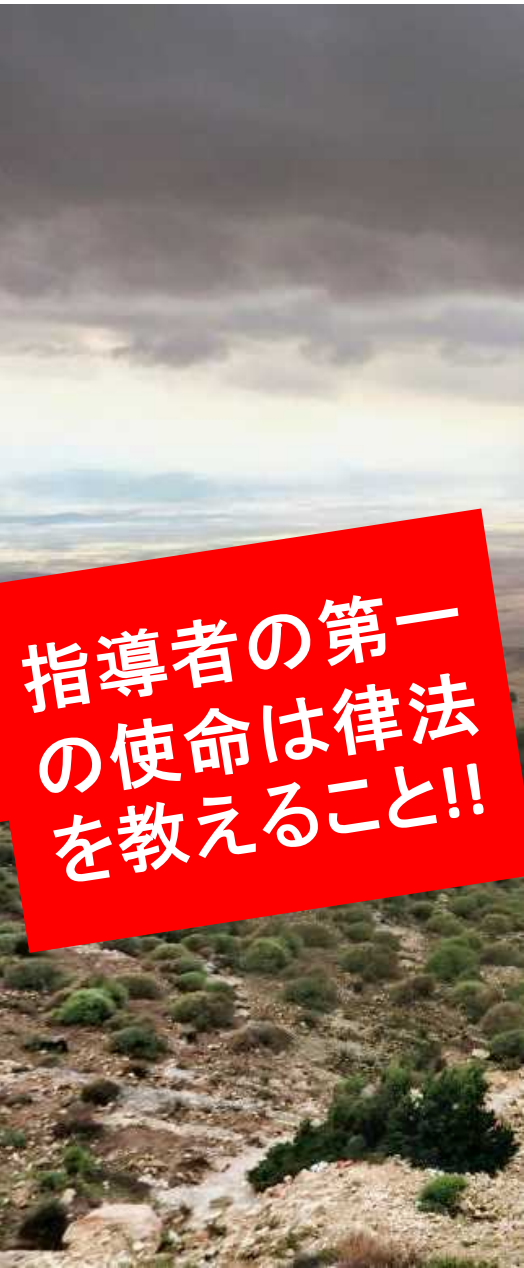
➡ 主が常に第一に問われるのは、わたしとあなたの関係



【レビ族と長老たちへの促し】 申31:9～13

モーセはこのみおしえを書き記し、【主】の契約の箱を運ぶレビ族の祭司たちと、イスラエルのすべての長老たちにこれを与えた。モーセは彼らに命じた。「七年の終わりごとに、すなわち免除の年の定めの時、仮庵の祭りに、イスラエル全体が、主が選ばれる場所に、あなたの神、【主】の前に出るためにやって来たとき、あなたはイスラエル全体の前で、彼らの耳にこのみおしえを読んで聞かせなければならない。

民を、男も女も子どもも集めなさい。あなたの町囲みの中にいる寄留者も。彼らがこれを聞いて学び、あなたがたの神、【主】を恐れ、このみおしえのすべてのことばを守り行うようにするためである。これを知らない、彼らの子どもたちもこれを聞き、あなたがたがヨルダン川を渡って所有しようとしている地で、彼らが生きるかぎり、あなたがたの神、【主】を恐れることを学ばなければならない。」



指導者の第一の使命は律法を教えること!!

【主ご自身によるヨシュアの任命】 申31:14～15

それから【主】はモーセに言われた。「今や、あなたの死ぬ日が近づいている。ヨシュアを呼び寄せ、あなたがたは会見の天幕*に立て。わたしは彼に命令を下そう。」モーセとヨシュアは行って、会見の天幕に立った。

【主】は天幕で雲の柱のうちに現れた。*雲の柱は天幕の入り口にとどまった。

* 会見の天幕 ➡ 幕屋

* 神の栄光、シャカイナグローリーが現れた。

■ 神の明らかな臨在の中で、
ヨシュアの任命が行われる。



【モーセとヨシュアに警告される民の背き】 申31:16～18

【主】はモーセに言われた。「見よ、あなたは間もなく先祖とともに眠りにつこうとしている。この民は入って行こうとしている地の異国の神々を慕い、自分たちのうちで淫行を行い、わたしを捨てて、わたしがこの民と結んだわたしの契約を破る。

その日、わたしの怒りはこの民に対して燃え上がり、わたしも彼らを捨て、わたしの顔を彼らから隠す。彼らが焼き尽くされ、多くのわざわいと苦難が彼らに降りかかると、その日この民は、『これらのわざわいが私たちに降りかかるのは、私たちのうちに私たちの神がおられないからではないか』と言う。

わたしはその日、彼らが行ったすべての悪のゆえに必ずわたしの顔を隠す。彼らがほかの神々の方に向かったからである。

神の臨在(栄光)が民から去る。
民はよび、もつとも厳しい裁き

【イスラエルへの戒めの歌】 申31:19～21

今、次の歌を書き記し、それをイスラエルの子らに教え、彼らの口にそれを置け。この歌をイスラエルの子らに対するわたしの証しとするためである。

わたしが彼らを、彼らの父祖たちに誓った乳と蜜の流れる土地に導き入れるとき、彼らは食べて満ち足り、肥え太り、そして、ほかの神々の方に向かってこれに仕え、わたしを侮ってわたしの契約を破る。

多くのわざわいと苦難が降りかかるとき、この歌が彼らに対して証しをする。彼らの子孫の口からそれが忘れられることはないからである。わたしが誓った地に彼らを導き入れる以前から、彼らが今しようとしている計画を、わたしはよく知っているからである。」

イスラエルの
背きの警告は
まず、ヨシュアへ

戒めの歌により、
イスラエル自身に
警告された

モーセの担っていた重責を
ヨシュアは知っただろう

【イスラエルの指導者の使命・主の励まし】 申31:22～23
モーセは、その日、この歌を書き記してイスラエルの子らに教えた。それから主はヌンの子ヨシュアに命じられた。「強くあれ。雄々しくあれ。あなたはイスラエルの子らを、わたしが彼らに誓った地に導き入れるのだ。わたしが、あなたとともにいる。」

- イスラエルが不信仰に陥ることを知らされた上で、ヨシュアは、指導者として立てられていく。
- 目の前には、強大な敵との戦いがある。
➔ 恐れ、おののくヨシュアを、主は何度も励まされた。




【レビ人への戒め】 申31:24～27

モーセがこのみおしえのことばを、その最後まで書物に書き終えたとき、モーセは【主】の契約の箱を運ぶレビ人に命じた。

「このみおしえの書を取り、あなたがたの神、【主】の契約の箱のそばに置きなさい。その場所で、あなたに対する証しとしなさい。

私は、あなたがどれほど逆らう者であるか、うなじを固くする者であるかをよく知っている。見よ。私があなたがたとともに生きている今でさえ、あなたがたは【主】に逆らってきた。私の死後は、なおさらであろう。」

律法が常に突きつけるのは、私たちの罪の闇の深さにほかならない!!



モーセ最大の功績は、律法を記したこと!!



レビ人ですら、この霊的状态!!



【民の心に刻まれる、主の戒め】 申31:28～30

あなたがたの部族の長老たちと、つかさたちをみな、私のもとに集めなさい。私はこれらのことばを彼らに聞こえるように語ろう。私は天と地を彼らに対する証人に立てる。私の死後、あなたがたがきつと墮落して、私があなたがたに命じた道から外れること、また、後の日に、わざわいがあなたがたに降りかかることを私はよく知っているからだ。それは、あなたがたが【主】の目に悪であることを行い、あなたがたの手のわざによって主の怒りを引き起こすからである。」

モーセはイスラエルの集会全体に聞こえるように、次の歌のことばを終わりまで唱えた。

天地を証人に、
モーセは神の戒めを告げた。
知らなかつたとは、
誰も言い逃れできな

Ⅱ. モーセの歌

申命記32章



ネボ山からの景色

【私たち被造物の本来の使命】 申32:1～4

天よ、耳を傾けよ。私は語ろう。
地よ、聞け。私の口のことばを。

私のおしえは雨のように下り、私のことばは露のように滴る。若草の上の小雨のように。青草の上の夕立のように。まことに私は【主】の御名を告げ知らせる。栄光を私たちの神に帰せよ。

主は岩。主のみわざは完全。まことに主の道はみな正しい。主は真実な神で偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。

- 神の被造物の造られた目的は、主を讃えること。
- 御名を告げ知らせることこそ、栄光を神に返すこと。
 - ➔ 伝道の意識が、信者を成長させる推進力。

戒めの歌も主への賛美から始まる



【直ぐな神と、よこしまな民】 申32:5～9

自分の汚れで主との交わりを損なう、主の子らではない、よこしまで曲がった世代。

あなたがたはこのようにして【主】に恩を返すのか。愚かで知恵のない民よ。主はあなたを造った父ではないか。主はあなたを造り上げ、あなたを堅く立てた方ではないか。

昔の日々を思い出し、代々の年を思え。あなたの父に問え。彼はあなたに告げ知らせる。長老たちに問え。彼らはあなたに話す。

いと高き方が、国々に相続地を持たせ、人の子らを割り振られたとき、イスラエルの子らの数にしたがって、もろもろの民の境を決められた。【主】は、測り縄で割り当て地を定められた。ご自分の民、ヤコブへのゆずりの地を。

イスラエルが
地をさばく
神の基準!!

イスラエルを
見れば、
人類の状況
が分かる

【主がイスラエルに与えた最上の祝福】 申32:10～14

主は荒野の地で、荒涼とした荒れ地で彼を見つけ、これを抱き、世話をし、ご自分の瞳のように守られた。

鷺が巢のひなを呼び覚まし、そのひなの上を舞い、翼を広げてこれを取り、羽に乗せて行くように。

ただ【主】だけでこれを導き、主とともに異国の神はいなかった。

主はこれを地の高い所に上らせ、野の産物を食べさせた。主は岩からの蜜と硬い岩からの油でこれを養い、牛の凝乳と羊の乳を最良の子羊とともに、バシヤンのものである雄羊と雄やぎを小麦の最良のものとともに、与えてくださった。あなたは泡立つぶどう酒を飲んだ。

誰からも見捨てられた
寄留者イスラエルを、主は、
鷺がヒナを育み、巢立たせるように、
豊かな大地が獣を養うように、
最上の祝福で満たしてくださいました。

【神を忘れた神の民】 申32:15～18


エシュルン*は肥え太ったとき、足で蹴った。あなたは肥え太り、頑丈でつややかになり、自分を造った神を捨て、自分の救いの岩を軽んじた。

彼らは異なる神々で主のねたみを引き起こし、忌み嫌うべきもので、主の怒りを燃えさせた。

彼らは、神ではない悪霊どもにいけにえを献げた。彼らの知らなかった神々に、近ごろ出て来た新しい神々、先祖が恐れもしなかった神々に。

あなたは自分を生んだ岩をおろそかにし、産みの苦しみをした神を忘れてしまった。

* エシュルン ...“義なるもの” イスラエルの呼び名



イスラエル(神戦いたもうは、
主ご自身によって生み出された、
真正の神の民であつたにも
関わらず……。)

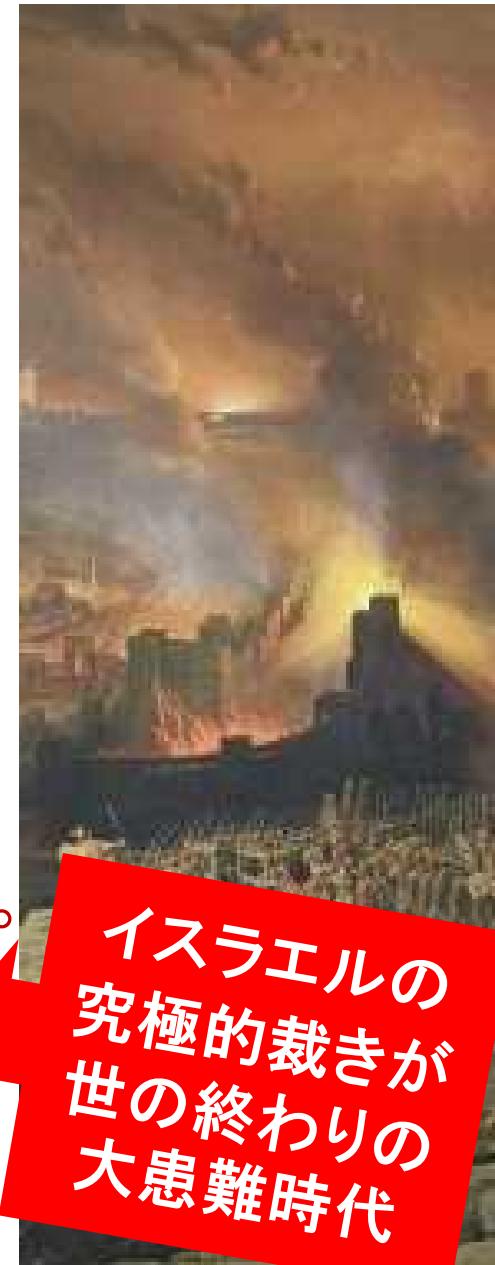
【イスラエルへの神の裁き】 申32:19～22

【主】は見て、彼らを突き放された。主の息子と娘たちへの怒りゆえに。主は言われた。「わたしの顔を彼らから隠し、彼らの終わりがどうなるかを見よう。彼らは、ねじれた世代、真実のない子らであるから。

彼らは、神でないものでわたしのねたみを引き起こし、彼らの空しいものでわたしの怒りを燃えさせた。わたしも、民でない者*たちで彼らのねたみを引き起こし、愚かな国民*で彼らの怒りを燃えさせる。

火はわたしの怒りで燃え上がり、よみの底まで燃えていく。地とその産物を焼き尽くし、山々の基まで焼き払う。

* バビロニア、ローマ...、異邦人に蹂躪されるイスラエル。



イスラエルの
究極的裁きが
世の終わりの
大患難時代

【神の忍耐がイスラエルを支える】 申32:23～27

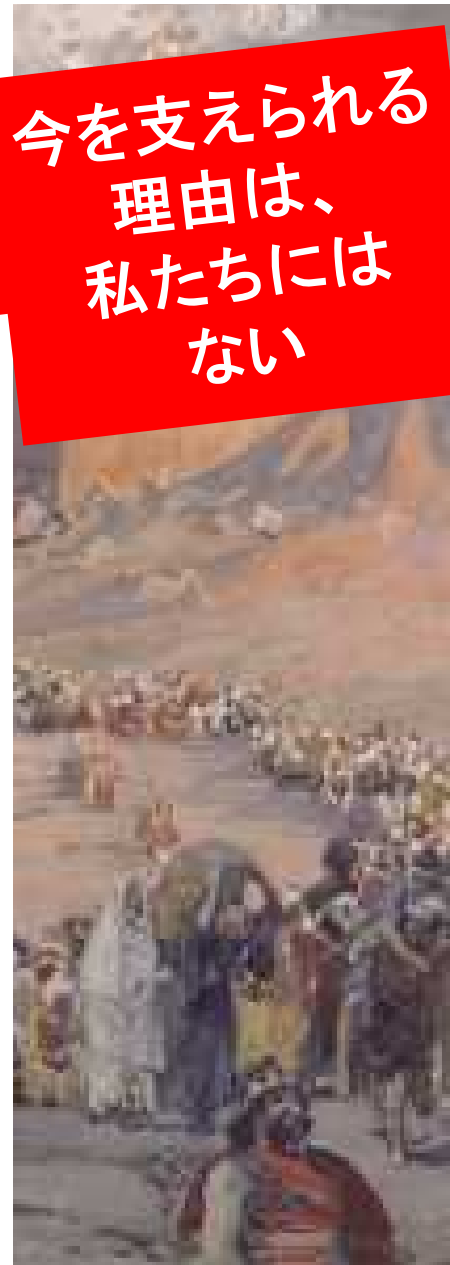
わたしはわざわいを彼らの上に積み重ね、わたしの矢を彼らに向けて射尽くす。

飢えによる荒廃、災害による壊滅、激しい悪疫、野獣の牙、これらを、地を這う蛇の毒とともに彼らに送る。

外では剣が子を失わせ、内には恐怖がある。若い男にも若い女にも、乳飲み子も白髪の老人にも。

わたしは思った。彼らを一掃し、人々から彼らの記憶を消してしまおうと。もしも、わたしが敵のののしりを気にならなかったら—彼らを苦しめる者どもが誤解してはいけない。『われわれの手で勝ったのだ。これはみな、【主】がしたことではない』と言うといけない。」

今を支えられる理由は、私たちにはない



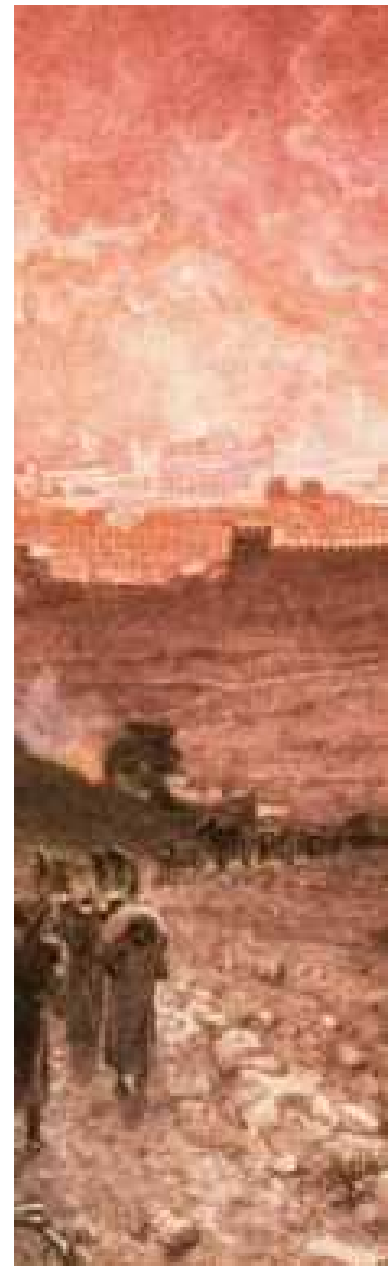
【悪の毒に侵されていくイスラエル】 申32:28～33

まことに彼らは思慮の欠けた国民、彼らのうちに英知はない。もしも知恵があったなら、彼らはこれを悟ったであろうに。自分の終わりもわきまえたであろうに。

彼らの岩が彼らを売らず、【主】が彼らを引き渡されなかったなら、どのようにして一人が千人を追い、二人が万人を敗走させたであろうか。

まことに彼らの岩は私たちの岩に及ばない。敵もこれを認めている。まことに彼らのぶどうの木は、ソドムのぶどうの木から、ゴモラのぶどう畑からのもの。彼らのぶどうは毒ぶどう。その房は苦い。そのぶどう酒は蛇の毒、コブラの恐ろしい毒。

* 主の岩から、サタンの岩に乗り換えてしまったイスラエル。




【裁きでも失われぬ主の憐れみ】 申32:34～38

「これ(裁きの毒)はわたしのもとに蓄えてあり、わたしの倉に封じ込められているではないか。復讐と報復はわたしのもの。それは彼らの足がよろめくときのため。彼らのわざわいの日は近く、来たるべき時が速やかに来る。」

【主】は御民をかばい、主のしもべらをあわれまれる。彼らの力が去り、奴隷も自由の者もいなくなるのをご覧になって。主は言われる。「彼らの神々はどこにいるのか。彼らが身を避けた岩はどこにあるのか。」

彼らのいけにえの脂肪を食らい、注ぎのぶどう酒を飲んだ者どもはどこにいるのか。彼らを立たせて、あなたがたを助けさせ、あなたがたの隠れ場とならせよ。」



イスラエルへの
主の憐れみは
失われぬ

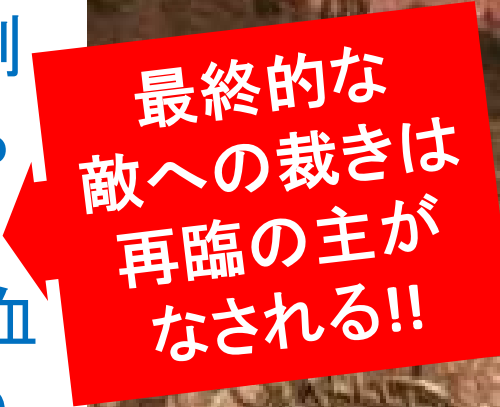
【神の主たる宣言】 申32:39～43

今、見よ、わたし、わたしこそがそれである。わたしのほかに神はいない。わたしは殺し、また生かす。わたしは傷つけ、また癒やす。わたしの手からは、だれも救い出せない。

まことに、わたしは誓って言う。『わたしは永遠に生きる。わたしが、きらめく剣を研ぎ、手にさばきを握るとき、わたしは敵に復讐をし、わたしを憎む者たちに報いる。

わたしの矢を血に酔わせ、わたしの剣に肉を食わせる。刺し殺された者や捕らわれ人の血に酔わせ、敵のかしらたちの首を食わせる。』

国々よ、御民のために喜び歌え。主がご自分のしもべの血に報復し、ご自分の敵に復讐を遂げて、ご自分の民とその地のために宥めを行われる。



最終的な
敵への裁きは
再臨の主が
なされる!!

【律法こそ、イスラエルのいのち】 申32:44

モーセはヌンの子ホセアと一緒に行って、この歌のすべてのことばを民の耳に語り聞かせた。

モーセはイスラエル全体にこのことばをみな語り終えて、彼らに言った。「あなたがたは、私が今日あなたがたを戒める、このすべてのことばを心にとどめなさい。それをあなたがたの子どもたちに命じて、このみおしえのすべてのことばを守り行わせなさい。

これは、あなたがたにとって空虚なことばではなく、あなたがたのいのちであるからだ。このことばによって、ヨルダン川を渡って行って所有しようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くことになる。」

モーセの歌は、
律法の戒めの要約

律法こそ、
イスラエルのいのち

律法は、
イスラエルを
守り育む
神の恵みそのもの

【モーセへの主の最後の命令】 申32:48～52

この同じ日に【主】はモーセに告げられた。

「エリコの向かいにあるモアブの地の、このアバリム高地のネボ山に登り、わたしがイスラエルの子らに与えて所有させようとしているカナンの地を見よ。

あなたの兄弟アロンがホル山で死んで、その民に加えられたように、あなたも、これから登るその山で死に、あなたの民に加えられる。

それは、あなたがたがツインの荒野のメリバテ・カデシュの水のほとりで、イスラエルの子らの間でわたしの信頼を裏切り、イスラエルの子らの間で、わたしを聖なる者としなかったからである。あなたは、わたしがイスラエルの子らに与えようとしている地を目の前に見るが、その地へ入って行くことはできない。」

主の約束は、
必ず成し遂げられる

モーセが、
約束の地に入る時は、
必ず来る



Ⅲ. まとめと適用

私自身をイスラエルに重ねる時
真に味わい知らされる、主の恵み

ネボ山からの景色

【モーセの歌・神の民の指導者が最後に果たした重大な責務】

- 約束の地を目の前に、モーセの死期も迫っていた。モーセは、最後の使命として、後継者ヨシュアを任命し、神の戒めを民に告げた。
- “モーセの歌”は、律法のすべての戒めの要約とも言えるもの。
イスラエルがとことん突きつけられたのは、自らの頑なさ。罪の深さ。
- 厳しい神の警告の後、それでもなお残るのは、主の果てしない憐れみ。
「【主】は御民をかばい、主のしもべらをあわれまれる。申32:36」
- 死にゆくモーセに、主は、ご自身の永遠の契約を覚えさせた。
約束の地に、完全な形で、モーセが招き入れられる時が来る。

【モーセの歌、律法、イスラエルから、私たちが学び取るべきこと】

- 人類の代表であるイスラエルの姿は、罪人である私たちの姿そのもの。
イスラエルが犯す罪は、私たちも犯し続けてきた罪。

- 胸に手をあてて、御霊による神との対話の中で、主の警告を聴きとろう。
わたしが、あなたが、無自覚に犯し続けている罪とは何だろうか？

- 認罪は、救いの入り口であり、信仰の成長を促し続けるものでもある。
イスラエルの罪と痛みを、自分自身のもものとして噛みしめられたなら、
イスラエルに約束された、主の憐れみと慈しみをも、
自分自身のもものとして味わい知ることができるだろう。

- 心に痛い、自分の罪の認識すらも、主の深い恵みなのだと知ろう。

【ヨシュアへの励ましを、自分自身の力としよう】

- 任命に際して先ず告げられたのは、イスラエルの深刻な背きの将来。
ヨシュアの肩にのしかかった、神の民の指導者たる重責。
恐れないはずがない。おののかないわけがない。
- モーセの歌から、ヨシュアが受け取ったに違いないことは、
何の資格もない私を、主が憐れみ、ご自身の民としてくださった恵み。
- 私には何も無い。しかし、主はすべてを所有しておられる。
私には何も見通せない。しかし、すべては、主の計画の内にある。
世にあって深い孤独に落ちこんだとしても、主はあなたと共におられる。
- ただ主に従い歩んでいこう。主は言われる。
「強くあれ、雄々しくあれ、わたしはあなたを見捨てない。」

「天のお父さま。

わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

イスラエルの罪を痛みを、私自身のものとして、噛みしめさせてください。

そして何より、イスラエルに約束された、主の憐れみと慈しみをも、

自分自身のものとして味わい知ることができる者としてください。

どうか、あなたの民が、あなたに栄光を帰(き)すことができますように。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン」